

# 女性高齢者の生活意識と生活設計に関する研究

## 第1報 女性高齢者の生活意識と生活準備

須田 博司・古寺 浩\*  
永原 朗子\*\*・堀田 剛吉\*\*\*

### 序 文

21世紀の高齢化社会は、女性にとってはきびしい社会だと言われている。これには大きく3つの課題がある。

第1に、日本人は世界一の長寿であるが、とくに女性は男性に比べ長生きであることである。厚生省の調査によると、平成4年で女性は平均寿命が82.22歳であり、男性の76.09歳より6.13歳も長い。これは人間が生きていく上で好ましいことではあるが、老後の生活を安定させて幸福に生きる上では、きびしい条件となる。

第2に、女性は経済力が一般に弱い点である。その理由は就業率が男性に比べ低いし、就業し続けた者でも賃金水準は平均して低い。そのため家庭でもつ固定資産・金融資産などは男性名義で所有されやすいし、老齢年金の受給が少ない場合が多くなる。

第3に、老人介護の責任は、一般に女性が持つ場合が多い。例えば女性は夫の両親の介護をして、平均7～10年早く死亡する夫を見送り、その後自分は息子の嫁又は娘にみてもらう場合が多い。この介護を主に女性が担当することになるのは、特性として細かいことに気がつき、子供を生み家庭にいる者が多いなど、この問題の担当に向く面が多くあるためであろう。

しかしこれらの問題は、いずれも高齢化社会

で女性に大きく負担をかけることになる。

本研究では、第1報として「女性高齢者の生活意識と生活準備」を1886人の調査をもとに分析し、この結果をふまえ第2報として「女性のライフスタイルと生活設計」とし、できるだけ具体的に生活準備のあり方を考えてみたい。

なお、これまでに本学紀要第18号で「ライフスタイルと生活準備」<sup>註1</sup>、第19号で「高齢者のライフスタイルと生活準備」<sup>註2</sup>の分析・研究発表をしてきた。今回は女性、特に高齢者に焦点を絞って研究した。

### 1. 研究の目的と方法

#### 1) 研究の目的

本研究では、女性の生活意識の特徴と生活準備の対応を分析し、特に女性高齢者の弱さを見出し・その課題と対策を検討することを目的とした。

上記研究目的を考察すべく、下記のような具体的課題と課題に基づく調査仮説をもって分析した。

#### 研究課題

①女性高齢者の生活意識の分析

②女性高齢者の生活準備・生活設計の分析

上記①②は『経済、生きがい、健康、家

\*金城学院大学短大部 \*\*金沢大学(非) \*\*\*岐阜大学

族関係、趣味・地域仲間、老後生活（介護者）』を対象とした。

③女性ライフスタイル別の生活準備・生活設計の分析…具体的な『経済準備・貯蓄等』を対象とした。

④女性の生活準備の弱さに対するの準備課題

## 調査仮説

①女性高齢者は長寿社会を良くない事と思っているのではないか。

②高齢者になるほど女性の方が生活の満足度は高くなるのではないか。

③生活の内容の満足度は性別・年齢によって差があるのではないか。

④生活設計の期間・重視度は性別・年齢によって差があるのではないか。

⑤老後生活の準備意識は性別・年齢によって差があるのではないか。

⑥経済準備はライフスタイル別で差があるのではないか。

⑦女性の生活準備はライフスタイル別で差がでてくるのではないか。

## 2) 研究の方法

研究の目的を達成するため、アンケート調査を実施し、以下の様な調査内容・対象者で平成4年10月留め置き調査を行なった。紀要第18・19号の研究は平成3年実施の調査で、今回の研究目的のため再度行ない、特に女性対象者を多くして実施した。

### (1) 調査の方法

①都市・農村、年齢階層別、性別のフェイスシートに見合う、幼稚園1園、小学校・中学校2校、大学1校の保護者・親および5老人会の会員を対象とした。

②配布総数2,134人で、有効回答は1,886人で、率にして88.4%であった。

③有効回答の内訳は、「女性1,121人、男性765人」・「都市（主に岐阜市）1,125人、農村（岐阜県下）747人、不明11人」であった。

④集計・分析にはSPSSを使用し、本学情

報研究室の本橋先生、一般教養の安藤先生には多大のご指導・ご協力をいただいた。

また、調査・集計には岐阜大学4年生新井陽子と東海短大・学生の協力を得た。

### (2) 調査の内容

スペースの関係で調査票は割愛するが、設問内容は下記のごとくである。

#### I. フェイスシート

①居住地、②年齢、③性別、④職業（本人）、⑤職業（配偶者）、⑥居住関係（同居・別居）、⑦ライフステージ

#### II. 設問項目・内容

①②生活・生活内容の満足度、③ライフスタイル、④⑤生活設計の期間と重要度、⑥⑦⑩老後の経済準備と重視事項、⑧⑨⑫⑬長寿に対する意識と介護について、⑩老後の生きがい、⑭⑮老後の生活費と住み方、⑯資産管理、⑰生活大国5ヶ年計画に対して

### (3) ライフスタイルの分類と概要

紀要第18号からの我々の研究は、従来の生活条件別の調査だけでなく、生活の価値観・態度を重視したライフスタイルを中心に分析してきた。

今回調査は、前回調査にさらに「社会奉仕重視」・「夫婦生活重視」スタイルを加え10のスタイルをもとに調査をした。特に第2報はこのライフスタイルを中心に論じるので、ここでライフスタイルの分類と調査結果をまとめておこう。

前回調査同様、各スタイル別に4項目の選択肢、合計36設定し、そのうち10項目を選択させた（但し、7項目以上選択されていない調査票は有効回答と見なさなかった）。各スタイルの4項目中3つ以上選んだものをそのスタイルと命名した。

スタイル名および今回の調査結果は次頁の如くである。2つのスタイル選択者373名、3つのスタイル選択者14名いたが、次頁のようにある程度選択者がいる場合は個々のスタイルとし、残りはまとめて今回は17スタイルで集計分析した。なお選択項目が3つ以上選ばず、どのスタイルにも入らないのを「まんべんなくスタイル」とした。

表1 ライフスタイルの分類

	ライフスタイル名	実数	%
1	食生活重視スタイル	151	8.0
2	衣生活重視スタイル	27	1.4
3	住生活重視スタイル	28	1.5
4	レジャー重視スタイル	110	5.8
5	教育・文化向上重視スタイル	36	1.9
6	老後生活重視スタイル	235	12.5
7	家の格式重視スタイル	144	7.6
8	社会奉仕重視スタイル	103	5.5
9	夫婦生活重視スタイル	142	7.5
10	まんべんなくスタイル	523	27.7
11	老後・家の格式重視スタイル	70	3.7
12	老後・夫婦生活重視スタイル	43	2.3
13	食・老後生活重視スタイル	26	1.4
14	老後・社会奉仕重視スタイル	25	1.3
15	食・夫婦生活重視スタイル	23	1.2
16	その他2スタイル選択者	186	9.9
17	その他3スタイル選択者	14	0.8
合計		1886	100%

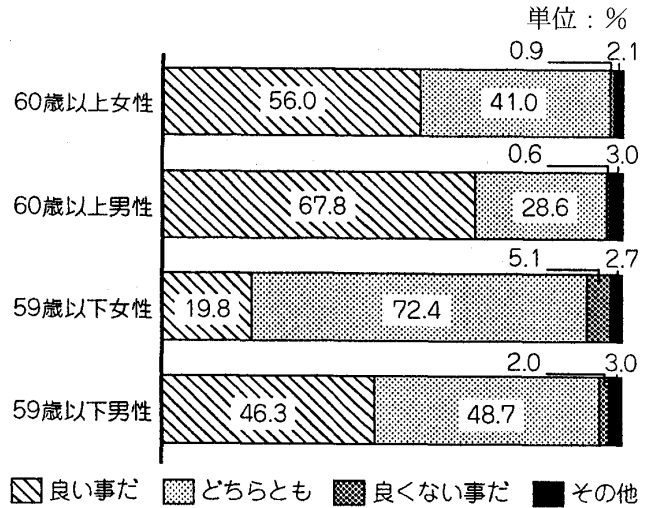


図1 女性長寿に対する意識

女性91.6%と各年齢男女差は少くないが、高齢者になるほど満足している人が多くなる。

それ故長寿に対する女性の意識はここでは分析出来ないで、更に生活内容の「経済・生きがい・健康・老後生活」等を若・中年女性と60歳以上男性・女性別を中心に分析していく。

次頁の図2より、生活内容の「経済」「生きがい」「趣味・地域仲間」を見ると、59歳以下女性の満足度より60歳以上男女が10%前後高い満足度で、70~80%近い非常に高い数値である。若い人程住宅取得・子供の教育等経済的には余裕がなく、また趣味や生きがいはこれから作り上げていく時期であるので、満足度が少ないのは理解出来る。

逆に、「健康」「家族関係」は年齢による満足度の差異はほとんどなく、若干59歳以下の方が高い。健康は当然若い人の方が自信があり、子育て・教育を通して家族団らんがあり「家族関係」も若い人の方が満足度が高い。

しかし、「老後生活」は、若中年は別として、60歳以上でも他の生活内容の満足度より20%前後低い満足（男性52.1%、女性56.2%）である。59歳以下は『どちらも』56.2%あり、まだ老後生活まで考える事が出来ていない。

次に、60歳以上の男女比較と高齢年齢階層別に、高齢女性の弱さがないかを表は割愛するが調べて見る。先ず「経済」は女性の方が若干満足度が高いが、60歳以上男性は年齢階層で差異はないが、女性は65~64歳の84.2%と一番高く、

## 2. 女性高齢者の生活意識の特徴

### 1) 長寿社会と生活の満足度

今回の調査で、「女性長寿社会」に対しての意識は、全体では良い事だが40.3%で、どちらとも言えないが半数以上の54.0%であった。しかし、60歳以上の男性は7割近くが良いと思っているのに対して、女性60歳以上は56.0%で、どちらも41.0%もあった。さらに女性59歳以下ではどちらも72.4%もあり、女性長寿は女性自身は男性と比してあまり歓迎しているとは思えない(図1)。

この点を解明すべく、アンケート調査の「生活の満足」・「生活内容の満足度」の意識を分析した。

『現在の生活に満足している(満足・まあまあ満足)』と回答した者は、59歳以下男性72.7%・女性70.7%に対し、60歳以上男性90.1%・

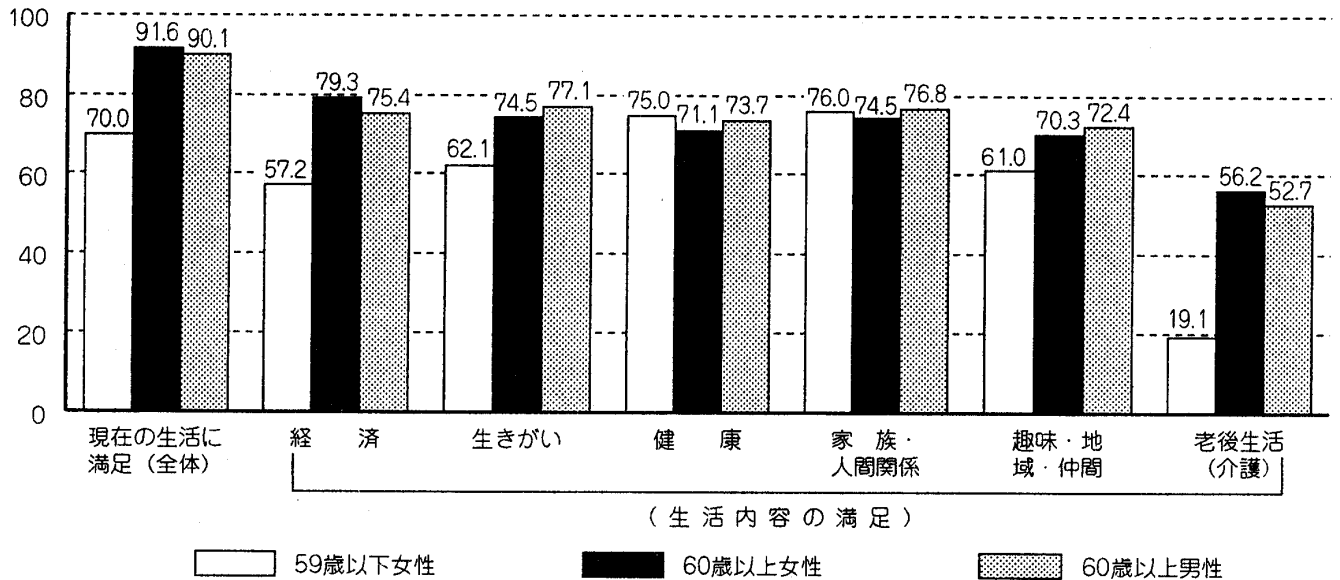


図2 生活の満足と生活内容の満足 (性別)

注：「満足」「まあまあ満足」と回答した者の合計

前後の年齢は低くなっている。

「生きがい」は逆に男性の方は僅かに高く、高齢化していくほど満足し75歳以上では84.9%と高いが、女性は70～74歳 (78.5%) の年齢層が一番満足が多く前後の年齢層の満足は低くなっている。高齢女性の弱さが若干読み取れる。

「健康」は高齢男女に意識の差があり、男性は60～64歳が満足が一番低く (62.8%)、高齢化していく程高くなる (75歳以上76.7%)。反対に女性は60～64歳が一番高く (81.6%)、高齢者程満足度は低くなっている (75歳以上65.5%)。健康面においても高齢女性の弱さがあると言える。

「趣味・地域仲間」は男性の65～69歳の77.2%、女性の70～74歳の76.1%をピークに前後減少しており、75歳以上では男女とも一割程低下する。これは前述の健康等と関係しているのではないか。

次に若・中年層に満足度が高い「家族関係」をみると、男性では59歳以下で83.3%・60歳以上では76～82%と多少バラつきはあるが満足度は一般に高いと言える。女性の場合は74歳以下までは75～80%の数値で年齢差は少ないが、75歳以上では64.3%と一番低い満足度であった。夫の世話 (介護) あるいは一人暮らし等高齢女性の家族問題は重要な課題である。

最後に、満足が半数近くしかなかった「老後生活 (含・介護者)」を分析すると、60歳以上の男女全体では僅か4%の差で女性の満足が高いが、これを年齢階層別で見ると表2のごとくである。男女とも75歳以上が満足が高いが、男性の65～69歳・女性の70～74歳に満足がいったん低い数値になっている。これらは上述の生活内容分析だけでは解説出来ない。

生きがい・健康・家族関係等女性の弱さと老後生活の満足度の低さ・年齢のバラつき等解明出来なかったが、次項で老後生活の安定に必要なものや、老後生活での生きがいを分析した。

表2 生活内容の満足『老後生活』

(性別・年齢階層別)

単位：％ ( ) 実数

性別 \ 年齢	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
女性	46.9 (23)	60.5 (69)	51.2 (43)	60.9 (53)
男性	48.8 (21)	45.6 (36)	51.2 (41)	59.6 (59)

注：「満足」「まあまあ満足」と回答した者の合計

表3 老後生活の安定に必要なこと

(年齢・性別・ステージ別)

単位：%

年齢・ステージ別	性別	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	第6位
年齢階層別 60歳以上	女性	健康 (85.9)	子供 (31.1)	経済 (25.9)	友人 (16.5)	趣味 (15.9)	夫婦 (15.6)
	男性	健康 (84.7)	経済 (28.9)	夫婦 (27.4)	子供 (23.3)	趣味 (20.6)	友人 (9.0)
ステージ別 独身後期	女性	健康 (82.2)	子供 (33.6)	経済 (29.9)	友人 (27.4)	趣味 (15.0)	夫婦 (1.9)
	男性	健康 (70.6)	子供 (35.3)	経済・趣味 (29.4)	夫婦 (17.6)	友人 (5.9)	

注：複数回答：計200%中

設問と省略した言葉を下記に説明

1. 趣味…趣味・仕事を持つこと
2. 夫婦…良好な夫婦関係を保つこと
3. 子供…子供等との関係を良くすること
4. 健康…健康であること
5. 友人…友人・仲間がいること
6. 経済…経済的に安定していること
7. その他…その他( )

## 2) 老後生活の安定と生きがい

先ず『安定した老後生活を過ごすために何が必要か』の意識を分析すると表3のようである。

数値に差はあるが必要順位をみると、男女・年齢を問わず「健康」が最も大切と回答している。

なお、表には出さなかったが59歳以下男女とも順位は、健康・経済・夫婦・趣味・友人・子供で60歳以上の人とは違っている。

60歳以上女性は2位に「子供」を選択し、「夫婦」は6位になっているのに対して、男性は3位に「夫婦」次いで「子供」とあり意識の差が出ている。これをステージ別独身後期の男女をみると女性は年齢別順位と変化がないのに対して、男性は「子供」が2位に上がり、妻が居ないのに夫婦関係を挙げ、ここでは男性の方が弱さがみられる。

独立した生活を考える場合、子供に頼るのは考えものであるが、現実高齢者は老後生活の安定には子供が大切であることが分かり、特に女性は夫より子供の方を頼りにしなければならないと感じている。これを女性長寿社会の弱さとするべきであろう。

次に『老後生活の生きがいとして持っているもの・持ちたいもの』から女性の生き方をみとみる(表4)。

先ず表にはしなかったが59歳以下男女は数値に差はあるが、順位は国内旅行・スポーツする・園芸と比較的行動的な生きがいを挙げている。60歳以上女性は園芸・国内旅行の次に「裁縫」「読書」と家庭内での生きがいを上位に挙げているが、逆に60歳以上男性は園芸・国内旅行・読書の次に「スポーツする・観戦」と続き行動

表4 老後生活の生きがいとして持ちたいもの……上位7位まで

(年齢・性別・ステージ別)

単位：%

年齢・ステージ別	性別	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	第6位	第7位
年齢階層別 60歳以上	女性	園芸 (61.1)	国内 (45.5)	裁縫 (30.5)	読書 (27.5)	ボランティア (27.5)	町内 (19.2)	スポーツする (16.8)
	男性	園芸 (57.1)	国内 (50.5)	読書 (30.6)	スポーツする (23.3)	スポーツ観戦 (22.9)	ボランティア・町内 (20.9)	
ステージ別 独身後期	女性	園芸 (58.9)	国内 (37.4)	ボランティア (29.9)	町内 (27.1)	スポーツする (24.3)	読書・裁縫 (24.3)	
	男性	国内 (47.1)	スポーツ観戦 (25.3)	読書・園芸・町内 (29.4)	創作・スポーツする (23.5)			

注：複数回答…合計300%中の値

設問と省略した言葉を下記に説明

1. 読書…読書
2. ボランティア…ボランティア活動
3. 園芸…園芸・家庭菜園
4. 囲碁…囲碁・将棋
5. 芸術…芸術・音楽鑑賞
6. 創作…創作・芸術活動(俳句・絵画・音楽演奏等)
7. 裁縫…裁縫・手芸
8. 海外…海外旅行
9. 国内…国内旅行
10. スポーツする…スポーツする
11. スポーツ観戦…スポーツ観戦
12. 町内…町内の仕事を
13. その他( )

するものを求めている。

しかし、一人だけの独身後期の生きがいは、表4に示す様に女性は3位以降に「ボランティア」「町内の仕事」「スポーツする」と続き、外に向けての積極的行動がうかがえる。

逆に、男性は国内旅行の次に「スポーツ観戦」が2位になり、テレビを見たり読書等家庭内の生きがい問題に転じている。

以上、長寿社会を女性自身が男性と比して良いことだとの意識が低いことを解明するため、「生活の満足」「生活内容の満足」と「老後生活の安定」「老後生活の生きがい」を中心に分析してきた。生活満足度調査では男性より若干下回る感じであったが、老後の生き方で特に夫に頼らず、独身後期も外へ向かっての積極的な行動がみられ弱さを見ることは出来ない。

しかし、生活内容「健康」で女性は高齢化していく程満足度が下がり、「家族関係」では75歳以上で一番満足度が低かった。又、老後の安定した生活に必要なものは「健康」「子供」と1・2位に挙げている。

これは、男性=夫は平均寿命からみて、女性=妻よりも先に死亡するものと見方の回答であると思われる。女性は夫を介護し、高齢と共に自分の健康も心配で、面倒をみてもらえる子供を頼りにする結果となっている。

今後長寿社会の中で、女性が安心して老後生活を送れる重要課題は、経済的問題はもとより、健康を害しても安心してみてもらえる介護環境・施設作りではないか。

### 3. 女性の生活準備の弱さ

女性の長寿化に伴い、豊かな老後生活を送るためには、若い時から将来に向けての生活準備が必要である。ここでは、女性は男性と比べて、また年齢別にみて、生活準備の何が弱いのかを見ていきたい。

具体的には、「将来の生活設計を立てる時の期間」および「生活設計を考える時に重視する

内容（経済、生きがい、健康、家族・人間関係、老後生活、趣味・地域仲間）」そして、「定年退職後の生活準備が出来ているかどうか」の項目を中心に見ていく。

#### 1) 生活設計の準備期間

図3より、将来の生活設計を立てる時に、どのくらい先までを考えているかについてみると、「全く立てていない」と答えた人は、男女共に約2割程いるが、約7割の人（男性72.0%、女性70.4%）は立てていると答えている。

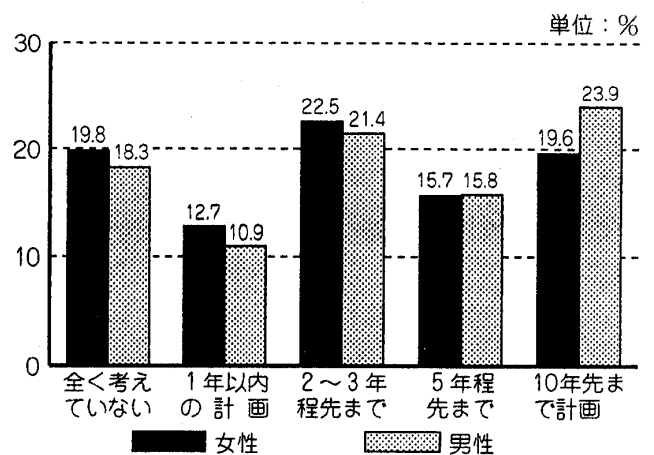


図3 将来の生活設計期間

次に、生活設計を立てている人の期間についてみると、女性は男性と比べると、「5年程先まで」および「10年程先まで」と答える人が少なく、「1年程以内」および「2～3年程まで」と答える人が多い。特に、男性は「10年程先まで」、女性は「2～3年程先まで」が最も多い。

また、年齢別にみると、女性は20、30歳代、65～69歳および70～74歳では「2～3年程先まで」と答える人が最も多く、40・50歳代と60～64歳では「10年程先まで」と答える人が最も多い。そして、75歳以上になると「全く考えていない」と答える人が最も多くなっている。

以上の結果より、女性は男性よりも、また、高齢期にはまだ遠い20・30歳代では、将来を見通した長期間の生活設計の準備が弱いと言える。

また、高齢期に入った65歳以上の年齢の人たちは、長期間の生活設計を立てるよりも、老後の限られた期間の生活設計に重点をおいている

と思われる。特に、後期高齢者の年齢である75歳以上になると、生活設計を立てることを考えていない人が4分の1以上もいる。

## 2) 生活設計の準備に対する重視内容

図4は、生活設計を考える時、重視する内容の割合を表したものである。

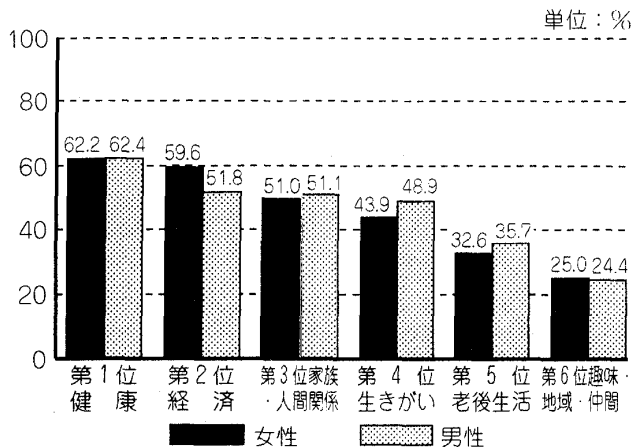


図4 生活設計の準備に対する重視項目の順位 (性別)

まず、重視する割合の多い項目を順にみると、男女共に、健康、経済、家族・人間関係、生きがい、老後生活、趣味・地域仲間、であり、特に、「健康、経済、家族・人間関係」は過半数の割合を占めている。

次に、これらを男女別によると、健康、家族・人間関係、趣味・地域仲間は男女差がみられないが、経済は、男女差が7.8%で女性の方が高く、生きがいは5.0%、老後生活は3.3%でそれぞれ女性の方が低い。

すなわち、女性は生活設計を立てる時、経済に対しては重視するが、生きがいや老後生活に対しては、男性よりも重視度が弱いと言える。

次に、表5より各項目について年齢別に見ていきたい。

女性の方が重視者が多い経済については、59歳以下も60歳以上も女性の方が強いが、特に、59歳以下の方が男女差が7.5%もあり強い。

次に、女性の方が重視の弱い生きがいについては、59歳以下ではその傾向がある。しかし、60歳以上になると、女性の方が男性を若干上回

表5 生活設計の重視項目 (重視する割合)

(性別・年齢別)

単位: % ( ) 実

年齢別	性別	経済	生きがい	健康	家族・人間関係	老後生活	趣味・地域仲間
59歳以下	女性	66.8 (525)	43.3 (340)	64.4 (506)	54.8 (431)	30.7 (241)	26.1 (205)
	男性	59.3 (274)	52.2 (241)	64.5 (298)	60.0 (277)	36.6 (169)	29.7 (137)
60歳以上	女性	42.8 (143)	45.5 (152)	57.2 (191)	42.0 (140)	37.1 (124)	22.5 (75)
	男性	40.2 (121)	43.9 (132)	59.1 (178)	37.5 (113)	34.9 (105)	16.3 (49)

るが、差はほとんどない。そして、老後生活についても同様である。これらのことは、特に20・30歳代の割合が最も低く出ていることと関係があると思われる(男女差はそれぞれ19.9%、11.9%で女性の方が低い)。そして、重視することに男女差のない健康については、どの年齢層にも差はない。しかし、家族・人間関係では、59歳以下で女性の方が低く、差は5.2%もある。特に、20・30歳代では差が11.0%もある。そして、60歳以上になると、女性の方が高くなり、差は4.5%もある。

また、趣味・地域仲間では、59歳以下で女性の方が低く、差は3.6%ある。特に、20・30歳代で差が12.8%もあり、最も大きい。そして、60歳以上になると、女性の方が高くなり、差は6.2%である。

以上の結果より、生活設計を立てる時、重視する内容として女性の方が弱いものは、生きがいと老後生活であるが、年齢別でみると、生きがいも老後生活も60歳以上では差がなくなる。

また、家族・人間関係や趣味・地域仲間は、59歳以下で女性の方が弱く、特に、20・30歳代の若い年齢が弱い。

## 3) 老後生活 (定年退職後) の準備

表6は、老後生活の準備の出来ている割合を表したものである。

女性が男性よりも「出来ている」割合の低い項目は、「経済、生きがい、老後生活」であり、

表6 老後生活の準備（出来ている割合）

（性別・年齢別） 単位：％（ ）実数

年齢別	性別	経済	生きがい	健康	家族・人間関係	老後生活	趣味・地域仲間
59歳以下	女性	41.3 (325)	41.9 (329)	48.2 (379)	56.2 (442)	19.7 (155)	54.7 (430)
	男性	45.0 (208)	44.8 (207)	42.4 (169)	55.4 (256)	26.4 (122)	51.7 (239)
60歳以上	女性	70.1 (234)	65.9 (220)	72.8 (24.3)	50.6 (196)	66.2 (221)	66.2 (221)
	男性	74.1 (223)	67.4 (203)	74.4 (224)	45.5 (137)	63.5 (191)	63.5 (191)

男女差はそれぞれ6.5%、4.6%、7.4%である。

つまり、経済、生きがい、老後生活に対する準備は、女性の方が弱いと言える。

次に、年齢別に女性の方が男性よりも割合の低い項目を見ていくと、経済、生きがいは、どちらの年齢も女性は男性よりも低い。また、健康は60歳以上、老後生活は、59歳以下の年齢で女性の方が低い。しかし、家族関係、趣味・地域仲間に関してはどちらの年齢も女性の方が高い。

以上のことから、女性の生活設計の重視と老後生活の準備の関係を見ていきたい。

「経済、健康、老後生活」は、20歳代～50歳代で出来ている割合が、重視する割合を下回っているが、60歳以上になるとその逆になる。つまり、20歳代～50歳代は生活設計でこれらの内容を重視しているわりには、その準備が弱い。

また、「生きがい、家族関係」は、20・30歳代のみで出来ている割合が、重視する割合を下回っており、40歳以上はその逆となる。つまり、20・30歳代は生活設計でこれらの内容を重視しているわりには、その準備が弱い。しかし、趣味・地域仲間だけは、すべての年齢で出来ている割合が重視する割合を上回っている。

#### 4. 女性のライフスタイル別生活準備

本節では、女性の生活準備意識の特徴を、特にライフステージ別・ライフスタイル別に整理したい。

今までの分析で、老後への生活準備意識は女性に比べ男性の方が強いと考えられるが、反面女性は長寿であると同時に、介護も主に担当するものであるという現実的意識を持っている。また老後は、自分の子どもにより強く期待していることもわかった。

次に、家庭生活面からみたライフスタイルの支持者を、性別により分析しておこう。スタイルの整理法については、前報（紀要18・19号）の分析方法と同じである。

今回の調査は、数において女性にウエイトをおいたが、女性の支持が多いものとして、食生活、衣生活、住生活、教育文化、まんべんの各重視スタイルであり、とくに食生活・衣生活・まんべんに大きな差があった。女性は、今の身近な家庭生活を安定的に守ることを求めている

表7 ライフスタイル（性別）

単位：％（ ）実数

スタイル 性別	食生活	衣生活	住生活	レジャー	教育・文	老後生活	家の格式	社会奉仕	夫婦生活	まんべん
男性	2.2	0.4	0.9	8.6	0.8	15.3	9.4	6.4	7.7	23.1
女性	12.0	2.1	1.8	3.9	2.7	10.5	6.4	4.8	7.4	30.9
スタイル 性別	レ・老	食・レ	レ・夫	レ・住	老・家	2その他	3その他	合計		
男性	5.5	3.0	0.9	1.8	0.8	11.9	1.2	100.0 (765)		
女性	2.5	1.8	1.8	1.0	1.5	8.5	0.4	100.0 (1121)		

注：2つの重視スタイルをもつものも若干ある。表1 ライフスタイルの分類を参照されたい。



ようである。

他方、男性に多いのは、レジャー、老後の生活、家の格式、社会奉仕などの重視スタイルであるが、とくにレジャー、老後の生活に対して女性との格差が大きい。

性別による差異は、生活準備の中心課題である貯蓄目的の意識にも出ている。

男女とも「不時の支出」や「老後の生活」「子供の教育」「子供の結婚」に関心が高いが、女性はとくに「子供の教育」や「ローンの返済」に対する関心が大きかった。他方男性はとくに「不時の支出」「老後の生活」など長期的な家庭課題に対する関心が強かった。

表8 貯蓄目的の内容（性別）

単位：％（ ）実数

目的 性別	子供の教育	子供の結婚	耐久消費財購入	住宅(含土地)	不時の支出	教養・娯楽・余暇	老後生活	ローン返済	特に目的なし	その他	N A	合計
男性	29.4	22.5	1.6	12.9	52.3	12.2	45.8	6.4	5.8	1.0	10.2	200.0 (765)
女性	39.8	21.0	2.4	12.5	48.1	9.5	38.3	9.6	7.0	1.0	10.9	200.0 (1121)

注) 選択肢が多いので、2つ選択とした。

次に、ライフステージ別に貯蓄の内容を検討してみたい。とくに女性の側を中心にみておこう。(表9)

ここでライフステージ別に老後の生活準備の内容を分析しておきたい。なお表には出さないが、老後の経済準備が一応「できている」と考えるのは親子同居前期で36.8%あり、親子同居後期は51.7%、夫婦後期73.0%、独身後期は82.5%と確実に増加している。当然それなりの準備をしてきている結果であろう。

また、内容でみると次のごとくである。親子同居前期と同後期で「子供の教育」「子供の結婚」の意識が、そして夫婦後期と独身後期では「不時の支出」と「老後生活」ができているとするものが多くいた。なお、独身後期は、期待するものが少ないためか、この質問に対しN.Aが若干あった。

ではここで、女性のライフスタイル別の準備課題のうち「できている」と考えるものの比率を表にしよう。

表9 女性の経済準備の内容（ライフステージ別）

単位：％（ ）実数

経済準備の内容 ライフステージ	子供の教育	子供の結婚	耐久消費財購入	住宅(含土地)	不時の支出	教養・娯楽・余暇	老後(介護)	ローン返済	その他 N.A.	合計
親子同居前期	65.7	7.8	1.0	7.2	10.9	2.3	1.2	1.6	2.3	100.0( 513)
親子同居後期	36.5	42.2	1.6	4.4	11.6	1.2	0.8	0.8	0.9	100.0( 249)
夫婦後期	3.8	5.0	1.4	2.8	70.7	2.9	9.2	0.0	4.2	100.0( 239)
独身後期	0.9	5.6	0.0	0.9	62.6	7.5	10.3	0.0	12.2	100.0( 107)
平均	39.1	14.7	1.1	5.0	29.2	2.7	3.7	0.9	3.0	100.0(1121)
男性	28.5	17.8	0.9	5.5	35.2	3.9	4.1	0.4	3.7	100.0( 765)

注) ステージのN.A. 女性-13、男性-7は除く。

表10 女性のライフスタイル別の生活準備

単位：％

生活準備 ライフスタイル	経 済	生きがい	健 康	家族関係・ 人間関係	趣味・仲間	老後の生活
食 生 活	40.3	36.6	45.5	48.5	48.5	18.6
レ ジ ャ ー	50.0	40.9	59.1	50.0	51.3	31.8
老 後 生 活	56.0	48.3	72.7	61.9	58.5	43.2
家 の 格 式	55.5	45.9	59.7	47.1	59.8	40.3
社 会 奉 仕	50.0	76.0	70.3	50.0	79.6	51.8
夫 婦 の 生 活	60.3	50.6	57.9	59.1	57.9	34.9
ま ん べ ん	52.3	50.6	57.3	59.1	60.4	32.9

注：「できている」「まあまあできている」の合計

「経済準備」ができているとするものは、スタイル別による格差は少ないが、夫婦の生活、老後の生活、家の格式重視のスタイルでできているとするものが全般的にやや多い。また内容別では「生きがい」について、社会奉仕重視スタイルが多かった。「健康」に対しては社会奉仕、老後生活の重視スタイルでかなり高く、食生活重視スタイルでかえってきびしいためか少ない結果となった。「家族関係」については、老後生活と夫婦の生活重視スタイルにできているとするものが多く、家の格式重視スタイルは不安感をもつものが多かった。「趣味と仲間」づくりは、生きがいとかなり類似の関係になったが、社会奉仕重視スタイルがかなり強く、ついでまんべんスタイルであった。

「老後の生活への準備」をみると、社会奉仕重視スタイルについて老後生活重視スタイルが多く、若い人に支持の多い食生活重視スタイルは、非常に少なくなっている。

総合して老後生活重視と社会奉仕重視のスタイルのものは、準備ができているものが多い。また表は割愛するが男性は、女性に比べて社会奉仕スタイルで「経済」の準備が強いし、レジャー重視スタイルは「生きがい」「家族関係」「地域仲間」づくりなどの面ができているとするものが多かった。

このようにライフスタイル別の生活準備意識は、内容により準備ができていると考える程度

にかなり大きな差があることがわかった。

以上、ライフスタイルも生活の中で重視する課題を具体的に考える価値観であり、「生活に満足しているとか」「生活準備ができる」という問題も個人の意識であり、いずれも主観的なものである。したがってきびしく評価する人と、甘く評価する人で若干差はでようが、生活準備すべき課題を認識するためには役立つであろう。

## 5. 女性の生活準備対策

本節では、平均寿命から見て世界随一の長寿国であるわが国において、特に女性が、今後ますます長くなっていくであろう老後生活を、単なる余生としてではなく、第2の人生（セカンドライフ）として、積極的に生きていくための指針を得たい。そのためこれまで論述してきたアンケート調査結果とその考察に基づいて、第1報としてのまとめをするとともに、導き出された課題を整理し、続報としての第2報における論理的な枠組みを提示したい。

まず、本報においてアンケート調査結果の特に男女比較に基づく分析から導き出された課題について整理すると以下ようになる。

第2節で、長寿化による、女性の長生きについて、男性に比べて女性はあまり歓迎しておらず、生活の満足度・生き甲斐などからその理由

について考察を行ったが、第3節の結果をふまえて、さらに考察を深めるならば、生活設計の有無およびその期間から、男性に比べて女性は、老後生活を視野に入れた長期的な生活設計という点で弱さが見られ、生活準備の不備が長い老後生活への1つの不安材料となっていることがうかがえる。

また、生活設計における具体的な設計内容として、男性に比べて女性の方が「経済」を重視しているにも関わらず、現実の準備が出来ているかどうかについては、逆に女性の方に弱点が見られた。その他の設計内容に関する問題としては、男性に比べて女性の方が「生きがい」「老後設計」を重視する傾向が低く、従って、それらに対する準備も出来ていないということが明らかとなった。

ここで、生きがいとは、自らの価値を実現していくプロセスの中で見い出されるものであるという前提に立てば、これらの結果から、自らの価値を実現するという積極的な老後生活のための経済的な準備の方策を導くという、重要な研究課題を見い出すことができる。

第4節では、こうした家庭生活で特に重視する側面から分類した9つのライフスタイルと特に重視側面の見られないまんべんスタイルおよびその複合スタイルごとに、第3節で男女別比較を試みた老後生活の準備度合いの違いについて考察した。結果については、前述のとおりであるが、個々の被調査対象者の価値観に基づく意識と行動に関する考察を付加したこととなり、独自に設定したライフスタイルを視点とした分析の可能性と有効性を示唆するものであった。

個々の生活者の持つ価値について、東海女子短期大学紀要18号「ライフスタイルと生活準備」をはじめとするこれまでの研究報告の中で、ライフスタイルを「家庭生活のあり方を考える場合、生活条件をベースにはおくが、家族の意識・態度を重視した生活の類型」と定義し、老後生活準備に関わる意識と実態分析の前提としてきた。すなわち、意識としての価値と、それを反映する具体的生活行動を態度としてとら

え、独自の視点からライフスタイルの枠組みを形成し、このライフスタイルを世帯の属性、すなわち、意識や行動の作用要因として分析の視点としてきたのである。

今一度本研究の目的に照らしめて、ライフスタイルを基礎に捉えた今後の分析課題と、本報のまとめをすると以下ようになる。

本報によって導き出された高齢化社会における女性の内在的な弱さの根底には、老後生活を視座に置き、しかも本節の最初に述べた積極的な取り組みの1つの要因でもある、自らの生きがいを決定づける価値を実現するべく生活準備意識の希薄さがあるといえる。

この場合、自らの生きがいを決定づける価値の類型を、本研究では独自に設定したライフスタイルによって見い出そうと試み、その有効性と可能性を認識したのである。

従って、具体的方策・課題としては、これまで既存の生活条件や世帯属性に関わる平均値として示されていた生活設計指標に、ライフスタイル別指標にポイントを提示していくという新たな研究の方向性を第2報で明らかにしなければならない研究課題である。

次報では、具体的生活設計の内容と、準備の課題についてさらに分析を進めていきたいと考えている。

—家政学科—

注1 須田・堀田他『ライフスタイル別の生活準備』、第1報「ライフスタイルと生活意識」・第2報「ライフスタイルと経済準備」

東海女子短大紀要第18号 1992年3月

2 須田博司他「高齢者のライフスタイルと生活準備」

東海女子短大紀要第19号 1993年3月